

## 事業事前評価表

## 国際協力機構アフリカ部南部アフリカ第一課

## 1. 案件名（国名）

国名：ザンビア

案件名：ザンビア大学付属教育病院医療機材整備計画

(The Project for the Improvement of the Medical Equipment of the University Teaching Hospital)

## 2. 事業の背景と必要性

## (1) 当該国における保健セクターの現状と課題

ザンビア保健省はミレニアム開発目標（以下「MDGs」という。）の達成に向け、母子の健康／栄養、リプロダクティブヘルス、エイズ、結核、マラリアなどの個別プログラムの強化に加え、保健人材の育成、必須医薬品の調達、保健施設インフラ／医療機材の整備等の横断的課題を優先分野とする第4次国家保健戦略5カ年計画（National Health Strategic Plan IV、2006～2010年。以下「NHSP IV」という。）を推進している。しかしながら、2008年10月に開催されたNHSP IVの中間レビューでは、老朽化した医療施設の整備や医療機材の更新は喫緊に対応が必要な分野とされ、それら整備を進めるために必要となる基本情報システムの更新、資本投資バスケットの創設、医療施設・機材の維持管理計画の策定をはじめとする7つの戦略が掲げられた。

## (2) 当該国における保健セクターの開発政策における本事業の位置づけ

本計画の対象施設であるザンビア大学付属教育病院（以下「UTH」という。）は、第3次医療サービスを担う同国トップのリファラル病院であるとともに、現職医療従事者ならびに医師や看護師を目指す医学生に対し臨床教育を提供する施設である。加えて、首都ルサカにはUTHとヘルスセンターの間に1～2次レベルの病院がないこともあり、総人口の約15%が集中するルサカ市民にとっては、病院医療サービスが享受できる唯一の施設となる。ザンビア保健省も、同国トップのリファラル病院であるUTHの整備は政策面において大変重視している。しかしながら、広大な医療施設・設備の維持管理に加え、老朽化医療機材の更新に充当する予算手当に困難もあったことから、中央空調・換気システムの劣化や雨漏りが見られるようになり、当該施設に求められる使命を実現させるためには、既存施設の補修工事や老朽化医療機材の更新整備が必要となってきた。例えば、中央手術棟は築40年が、産婦人科診療棟（BおよびCブロック）に至っては築50年以上が経過している。医療機材についても、多くは10～15年以上が経過しており、老朽化・破損が進みつつある。このような状況は診療活動にも影響を及ぼしていると伺え、2006年及び2007年の手術件数や分娩件数を一例として見ると、それぞれ、16,654件から15,445件へ、14,356件から13,414件へと減少が見られている。

以上のような状況に直面し、UTHは保健省からの補助金に加え病院の自己収入資金（診療収入）も充当し施設補修に努めている。しかしながら、多様な補修工事を賄う財源を一度に手配することには困難が生じており、工事は優先度に基づき小規模単位で進められている状況にある。以上のように、現状においては施設補修に優先度がおかれているため、老朽化既存機材を更新するための予算確保が困難になっている。

ザンビア政府は、予算不足等が招く以上のような基本的な医療機材整備の困難性を鑑みて、日本政府に対し、第3次病院としての機能の回復と保健医療サービスの改善、更に現職医療従事者や医学生に対する臨床教育機能の強化を達成することを目的に UTH を対象とする基礎的な医療機材の調達に関する無償資金協力を要請した。なお、当初要請は医療機材の調達に加え施設補修工事も含めた内容であったが、2008年10月に実施された本件予備調査において、先方の申し出により、施設補修は UTH が対応することになり、我が国に対しての要請は機材調達のみという内容に変更された。

(3) 保健セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

妊産婦に対する産前産後のケア、安全な出産機会の提供などの強化を通じたりプロダクティブ・ヘルスサービスの充実、及び出生後の新生児ケアの強化は基礎的保健医療サービスの重要な構成要素であり、援助重点分野「費用対効果の高い保健医療サービスの充実」、開発課題「母と子どもの健康改善」の下の「母と子どもの健康対策支援プログラム」に合致する。

(4) 他の援助機関の対応

UNFPA；産科病棟への機材及び薬剤供与（7万ドル；2007年）

クリントン財団；小児科棟内での小児エイズ治療センター建設、医師派遣

### 3. 事業概要

(1) 事業の目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

UTHにおいて基礎的医療機材の整備を行うことにより、第3次病院としての機能の回復と保健医療サービスの改善、更に現職医療従事者や医学生に対する臨床教育機能の強化を図る。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

ザンビア大学付属教育病院（首都ルサカ市）

(3) 事業概要

1) 土木工事、調達機器等の内容

UTHの産婦人科、小児科、手術室、集中治療室において必要な医療機材の調達（以下）

- ・手術室；麻酔器、吸入器、吸引器、手術台、透熱療法装置、滅菌器
- ・新生児集中治療室；人工呼吸器、血液ガス分析器
- ・産婦人科；超音波診断装置、遠心分離脱水機、新生児蘇生器、ベッド、心臓撮影器
- ・小児科；人工呼吸器、トロリー、圧迫器、患者モニター、血液ガス分析器
- ・その他周辺施設；リネン用ボイラー、洗濯室用洗濯機、乾燥機、プレス/アイロン等一式

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

医療機材の維持管理指導、詳細設計

(4) 総事業費/概算協力額

総事業費 3.38 億円（概算協力額（日本側）：3.24 億円、ザンビア側：0.14 億円）

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）

2010年1月～2011年6月を予定（計18ヶ月。詳細設計、入札期間を含む）

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）

主管官庁：保健省 政策・計画局

実施機関：ザンビア大学付属教育病院

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類 C
- ② 影響と緩和・軽減策：特になし

2) 貧困削減促進：特になし

3) ジェンダー：特になし

(8) 他援助機関等との連携・役割分担 特になし

(9) その他特記事項 特になし

**4. 外部条件・リスクコントロール**

(1) 事業実施のための前提条件 特になし

(2) プロジェクト全体計画達成のための外部条件 特になし

**5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓**

特になし

**6. 評価結果**

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 妥当性

本事業は2. 事業の背景と必要性で記述のとおり、ザンビアのニーズならびに開発政策と十分に合致している。また、ザンビア政府が最重要課題と認識している5歳未満児死亡率の低下に貢献するものであることから、極めて緊急性が高い。

(2) 有効性

1) 定量的効果

指標名	基準値 (2007 年)	目標値 (2014 年) 【事業完成3年後】
ICUにおける平均在院日数	平均 50 日	短縮
手術件数	15,445/年	増加
分娩数	13,414/年	増加

2) 定性的効果

特になし。

**7. 今後の評価計画**

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6. (2) 1) のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

・事後評価 事業完成3年後

以上